

## 「、(てん) 文鎮」生成・黒・白

デザイン学科 助手 塚原寿子 Toshiko Tsukahara



本作品は、平面で扱われることが多い“文字”を立体化した、実験的作品である。

書道には「文房四宝」という、道具の美しさを重んじる言葉がある。主に、筆、墨、硯、紙の4つの道具を指すのだが、それらは古くからデザインされたものが多い。今回はあえて他の道具である文鎮をデザインした。

書道の基本画である「、(てん)」を用い、書く際の筆圧を高さとして捉え、立体化した。

“感覚的な書道のお手本”の提案でもある。

シナの木材を削り出して形を作り、本学デザイン学科所有機材 3D スキャナー (Artec Spider) と 3D プリンター (3DSYSTEMS PROJET HD3000plus) を使用し、光硬化性アクリル樹脂で形成した。鉛を入れ、ヤスリがけとスプレー塗装で仕上げ、色と質感の異なる「、(てん) 文鎮」3種 (生成・黒・白) を制作した。

photography 東京工芸大学芸術学部写真学科 2014 年卒業生 北川萌絵



東京工芸大学芸術学部デザイン学科助手。

東京都生まれ。6歳より書道を始める。グラフィックデザイナーを経て、東京工芸大学大学院芸術学研究科社会人入学(2期生)2001年修士課程修了。

和文カリグラファー(デザイン書道家)、グラフィックデザイナー、東京都非常勤講師、2014年～ANBD(アジア・ネットワーク・ビヨンド・デザイン)東京展実行委員。

書道+デザイン表現方法の研究。日本文化を取り入れたワークショップを多数開催。

